

参加しよう！公民館講座
「子どもお楽しみ料理教室」
「みんなで料理に挑戦」

中央公民館事業「子どもお楽しみ料理教室」みんなで料理に挑戦」を来る2月23日から3月23日までの毎週土曜日午前10時から午後0時半まで、5週連続で開催します。会場は中央公民館高幡台分室（程久保550番地）で、対象者は小学1年生から中学3年生までです。参加費は食材費として5回で2500円です。講座の申し込みは2月1日から先着順に高幡台分室で受け付けします。定員は20人です。メニューはすいとん汁、キヤベツのハンバーグ、たまご焼きの野菜あんかけなど。他に今年度の「ひのっ子シェフコンテスト」入選作品やみんなの人気投票で決めたものも作ります。また日野産の野菜を豊富に取り入れる予定です。講師の先生がていねいに作り方を教えてくれますので、みんなでおいしい料理を作り、みんなで一緒に楽しく食べましょう。料理の他に何かお楽しみがあるかもしれません。ぜひご参加ください。

【問合せ】中央公民館高幡台分室
(電話592-10864)

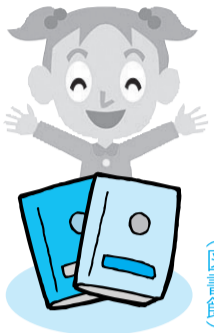


本の世界へ
ようこそ！

市内各図書館では、小学校3年生のクラスを訪問し「図書館利用ガイダンス」を行っています。「図書館の開いている時間は？」「最大何冊まで借りられる？」などクイズ形式での利用案内、『ストーリーテリング（語り）』や絵本の読み聞かせ、いろいろな分野の本に興味を持ってもらう、テーマに沿って選んだ本を紹介する『ブックトーク』等を行い、読書の世界へと子どもたちを誘います。

後日、紹介した本を探しに来館した子どもたちが「この前学校に来て本を読んでもくれた人！」と訪問した職員に声をかけてくれるなど、このガイダンスが「顔見知りの人がいて本の事を聞ける場所」として図書館を身近に感じてもらう契機ともなっています。

また中央図書館では、今年度4月より小学生以上のお子さんの保護者を対象に、本を紹介する時間を設けています。新刊児童書の紹介や、大人の方向けに構成した『ブックトーク』を行い本を紹介しています。「どんな本を子どもに薦めたらよいだろうか？」と迷われた時の参考になればと思います。今後とも色々な場で子どもと本を結びつける事業を行っていきます。



(図書館)

銅色(あかがねいろ)の輝き
金剛寺不動堂(重要文化財)
大屋根の保存修理工事が完成

みなさんは、金剛寺不動堂の屋根が、銅色に生まれ変わったのを、もうご覧になりましたか？昭和33年の解体修理から50年以上がたったため、大屋根等の修理が必要となり、平成24年1月から11月にかけて、保存修理工事が行われました。気温が50度近くにもなる夏場の銅板葺き作業は、大変だったといえます。銅色の屋根もやがて緑青(銅が酸化されることで生じる青緑色の錆。内部の腐食を防ぐ効果がある。)がふき、色が変わっていきます。現在のよう姿が見られるのは今のうちだけなので、この機会にぜひご覧ください。



(生涯学習課)

日野囃子保存会が平成24年度の
東京都青少年育成協力者等感謝状
を受けました！

日野第一小学校では、3学期になると、6年生が、地域の伝統芸能であるお囃子の授業を受けます。八坂神社のお祭りや公民館まつり等でおなじみの日野囃子保存会から太鼓や踊りを習い、開校記念朝会等で全校生徒の前でお囃子を披露します。児童らは、礼に始まり、礼に終わるお囃子の特別授業を通して、お囃子を単に楽しむだけでなく、正座や挨拶、人の話を聞く等、規律や礼儀作法を学ぶ絶好の機会となっています。このような活動が評価され、



11月6日市長へ報告

(生涯学習課)

日野町・桑田村・七生村の誕生

明治21年(1888)4月、市制及び町村制が公布され、日本全国で大規模な町村廃合が行われ、市町村に初めて自治制度が確立しました。このとき、現在の日野市域には、翌22年に日野宿、桑田村、七生村という3つの村が誕生しました。「ななお」は支所や中学校などの名前になっていますが、「くわたくわだ」は聞いたことがないという人も多いことでしょう。そこで、3つの村の成り立ちを見てみましょう。

***日野宿** 日野宿は、日野宿に粟須村の飛び地と西長沼村の飛び地を合併して出来た村です(粟須・西長沼とも現在は八王子市)。明治26年に日野町と改称しました。役場は初め現在の日野図書館の位置に置かれました。その後、明治45年に現在の中央福祉センターの西側付近に移転しました。同じ年に日野尋常高等小学校(現・日野第一小学校)が新築されたので、旧校舎を利用して役場にしました。この旧校舎は、明治10年に建てられた珍しい洋風2階建ての建物でした。昭和29年に現在の生活・保健センターの場所に役場が新築され、ここで市制施行を迎えました。昭和52年以降、神明の現在の庁舎が使われています。

***桑田村** 桑田村は、浅川北岸沿いの豊田村、川辺堀之内村、上田村、宮村、下田村、万願寺村、新井村、石田村の8つの村と粟須村の飛び地と西長沼村の飛び地が合併して出来ました。村名は、「桑林」と「水田」が多かったことに由来すると言われていました。この辺りでは明治10年代後半から、養蚕がとても盛んになり、桑がたくさん植えられたのです。桑田村役場は、川辺堀之内595番地の延命寺に置かれていたこと、その後、村民の寄付によつて、上田173番地(現在は日野青い鳥作業所)付近に新築されたことが分かっています。明治34年3月31日、桑田村は日野町に合併し、新しい日野町がスタートしました。

***七生村** 七生村は、平山村、南平村、高幡村、三沢村、程久保村、落川村、百草村の7つの村と西長沼村の飛び地が合併して誕生しました。七生村の役場は、初め高幡の金剛寺内に置かれていましたが、明治24年5月に、南平以西の者が不便なので、村の中央に置いてほしい、との意見が出されました。そこで、新築の役場が完成するまで、南平の寿徳寺に役場を置くことになりました。昭和6年10月に、南平1413番地(現・南平1-35、金剛寺旧跡公園の北側)に新しい七生村役場が新築落成しました。戦後、六・三制によつて中学校が誕生すると、七生中学校の校舎が出来るまでの間(昭和23年9月まで)、役場の建物が仮校舎

として使われました。この役場は昭和30年5月、焼失してしまいました。昭和33年2月1日に日野町と七生村は合併し、新しい日野町が誕生しました。その後、昭和38年11月3日に、日野町は市制施行して「日野市」となりました。全国で559番目の「市」の誕生でした。

今年(平成25年)は、日野市となつて50年目の節目の年にあたります。みんなで日野市50歳の誕生日をお祝いしましょう。

(郷土資料館)
郷土資料館では、市民学習団体である、「七生丘陵調査団」に業務委託をして、旧七生地区を中心に、日野市全域の自然やくらしの歴史を調査しています。今回は、その活動の成果として、パネル展開催の紹介をします。

***パネル展「棚田の四季」**
三沢地区には、昔ながらの棚田が残されています。今回のパネル展示では、2年間調査を行ってきた棚田とその周辺の自然について、四季折々の写真とともに紹介します。今では貴重となった七生丘陵地帯の原風景を楽しんでご覧ください。



【開催期間】平成25年1月10日(木)～2月13日(水)

【開催場所】京王線高幡不動駅
コンコース
(郷土資料館)